

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500048		
法人名	特定非営利活動法人 心		
事業所名	グループホーム げんき		
所在地	長野県飯田市座光寺3601-12		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090500048&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市市上13-6		
訪問調査日	平成23年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「なじみ」を念頭に、地区自治体に向けて、ボランティア募集の働きかけを行い、交流を深めている。又その中で、地域貢献(認知症研修等)の活動に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは観光名所'元善光寺'のお膝元に位置し、観光客が訪れ、お土産店が並び住宅地の中にあり、開所後4年目となる。この立地環境を有効活用し、元善光寺の様々な行事を共に楽しみながら、座光寺地区の方々との触れ合いや交流を深める努力をされて来た。ホームの理念でもある「なじみ」の関係づくりを大切に取り組み、地域の方々にまず「知ってもらうこと」さらに、どう繋がっていかれば良いかを職員が一体となり具体的な取り組みを重ねることにより、地域の方々やボランティアの理解や協力を得ている。またホームが持つ役割の一つとして、認知症の理解や認知症ケアの在り方を地域に発信すると共に、地域で暮らす人々へのサポートの大切さを認識され取り組まれている。また医療の協力体制が整っており、緊急時や終末ケアにおける対応・支援が行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識しながら、定例会議等で共有し、又実践に向けてのアイデア等を出し合っている。	「なじみ」「人間らしさ」を理念に掲げ、地域の一員として、その人らしい当たり前の生活をするを大切に支援している。さらに「我々げんき家族は」として基本方針を1～5項目を明記し、会議等で共有し、日々の支援に繋いでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域向けのボランティア募集の発信をしつつ、日常的に触れ合っている。又近所に散歩や買い物に出掛けながら挨拶を交わしている。	自治会に加入。地区の文化祭や元善光寺の祭事に出かけたり、散歩や買い物時の挨拶や交流を大切にしている。今年度は夏祭りの案内を手渡して声をかけたり、ボランティア募集を回覧板にのせて頂く他、研修等を行い地域の方々に関心を寄せて頂き繋がりを深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に、認知症についての研修を行なう予定がある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催しており、利用者や行事活動の様子を報告し、話し合いの中でサービス向上に向け取り組んでいる。	会議には地域包括支援センターの担当者・民生委員・利用者・ご家族等の出席を頂き、2ヵ月に1回開催している。まずは足を運んで頂き「げんき」を知ってもらうことや近況や活動状況、外部評価の取り組み等について報告を行い意見を頂きながらサービスへ繋いでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡会等に参加しながら、情報交換を得たり、運営推進会議には地域包括センターの職員に出席してもらい助言を頂いている。	毎月の事業者連絡会に参加し、市からの情報を得ると共に情報交換の機会としている。行事案内をして来訪を働き掛けたり、飯田下伊那範囲地区の勉強会に市担当者に来て頂き話を聞く等の計画をした経緯もあり、市との協力関係を築くよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束抑制の理念を掲げており、全職員に徹底を促している。又毎年の研修会に参加し理解を深めている。	契約書に利用者の権利として、身体的精神的拘束を受けないことを明記している。このケアの基本に副った支援について職員間で話し合い、具体的なあり方を見つめている。玄関や居室の施錠はしておらず、自由な暮らしを支援している。	身体拘束等の排除のための取り組みに関するマニュアルの整備を早急に行い、介護指定基準における禁止行為の理解や対応の在り方について、職員研修を継続的に行うことを希望します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加しており、職員会議の場で報告している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加しており、知識を得ている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者、家族との間で契約内容の説明を行ない、要望や質問等を聞いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年の家族会の中で意見、要望等を聞き取りホームの質の向上に反映させる様努めている。	運営推進会議や相談苦情対応窓口の案内は基より、普段から話し易い雰囲気作りを心掛け、ご家族の来訪時には十分話を聞くようにしている。夏冬の衣類交換時期に合わせ家族会を計画し代表者を中心に、お茶を飲みながら懇談の場を設け、要望を反映させるように努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日々の業務の中で意見、提案を聞く機会を持っている。	毎月の職員会議は管理者及び職員が全員出席し、様々な意見交換が行われている。管理者は常に職員の意見を聞く姿勢を持ち、出来ることを取り入れ、職員が安心して活動できるようバックアップし、より良い運営へ反映させている。必要に応じて個別面談も行われている。	

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	各職員に声掛けしながら、働きやすい職場となる様努めている。		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	各研修に職員全員参加出来る様、機会を提供している。		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホームの集いに毎回参加しており、全職員が順番で交流出来る様取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入所前の本人との面談の中で、現在の生活状態を把握し、安心して暮らせる様努めている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入所前の家族との面談の中で、家族の想いを聞き利用者にとって安心して暮らせる様努めている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	担当ケアマネとの調整の中で対応している。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を家族同様に思い、入所前の生活状態を維持出来る様支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の会話の中で、家族の話を出しながら聞く様努め、家族には都度利用者の日々の様子や行事参加を呼び掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年々高齢となり面会される方が少なくなる中で、一時帰宅や地域の行事に参加出来る様支援している。	地元の美容院の利用や盆・正月の一時帰宅、地区の文化祭への参加や、元善光寺の豆まき・春祭り・菊人形 等の昔馴染みの楽しみ事へ出かける等の支援を大切に取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を取り持ちながら、職員も一緒に関わっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移る際には、ホームでの生活環境、支援の情報を提供している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や家族の話聞き、利用者の表情、行動を職員は共有しながらその人らしく暮らせる様支援している。	今年度、新たに課題分析用チェックシートを用いて、ミニケア会議の中で、利用者を見守り深く見つめる取り組みを行っている。それぞれの職員の気づきや利用者の思いや意向の把握に努力されシートに記し職員間の共有を図り、一人ひとりの利用者への支援に繋いでいる。	

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、サマリー等常時閲覧出来る様にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々状態が変化する中で、全職員現状把握が出来る様に、申し送り、記録の徹底を図っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヵ月ごと見直し、ケア会議の中で家族の意見や職員の意見を取り入れながら作成している。	(9)のチェックシートを基に介護計画作成担当者が計画書を作成し、ご家族の来訪時や電話等で意向の把握や意見交換を行い介護計画書を作成している。毎月のケア会議の中でモニタリング・評価や見直し(3ヵ月毎)が行われ、現状に即した介護計画書が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の介護記録、身体状況の記録があり、全職員が共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状態が変化する中で、その人に合ったサービスを提供している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの方々が訪問して頂き、楽しめる機会を持てる様支援している。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>1ヶ月に1回の家族の希望する掛かり付け医の往診があり、その時は家族に情報を適切に伝えている。</p>	<p>利用者・ご家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的には通院はご家族同行となっているが、場合によっては柔軟な対応も行っている。かかりつけ医の往診を受けている利用者や協力医(歯科も含む)の往診があり、日常及び緊急時の協力や連携が得られている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>現在看護職が居ない為、かかりつけ医に相談、助言を得ている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には、医師、家族、事業所を交えながら、都度対応を話し合う様努めている。</p>	/	/
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期においてのケア会議を行い、本人、家族、事業所を交えながら支援を共有し医療関係者と日々連携を図りながら取り組んでいる。</p>	<p>利用者の希望に副った支援を行うというホームの方針は明確である。アンケートにより職員意見も把握した上で全職員が方針を共有し、本人ご家族の意向の把握をすると共に、状態に応じて話し合いを重ね、主治医・訪問看護等の綿密な連携の基に今年度看取りの支援がなされた。</p>	<p>看取りについて、研修や日常的な話の中で職員の意識化を図ってきたことが一体的な取り組みの成果と思われます。今年度の体験を基に、重度化や終末期ケアの指針を整備し、状態の変化に応じた適切な判断や連携がスムーズに行われるよう、さらなる取り組みを期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急救命講習の実施。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を実施しており、地域に向けての協力体制の呼びかけをしている。</p>	<p>協定書は交わしていないが、消防署の協力を得て年2回の防災避難訓練を実施している。地域の協力体制については自治会への働き掛けを行うと共にボランティアや近隣住民にホームを知ってもらう機会作りを行う等、継続的に取り組まれている。避難時の備蓄も用意している。</p>	<p>火災に限らず何時発生するかもしれない様々な災害を想定し、夜勤時でも適切な避難や誘導が出来るようマニュアル化すると共に、様々な訓練を行い、利用者の安心や安全の確保への取り組みを望みます。</p>

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を常に意識しながら、利用者に対しての言動、行動については注意している。	利用者の権利として、個人尊重・プライバシー保持・尊厳維持を明記し、常に意識しながら日々の支援が行われている。日頃から気になることはお互いに言い合える環境づくりを心掛けており、職員全体会議の中でも言動に対して注意しあい日々の対応に反映させている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けを行い、意思表示困難な方には、表情を見ながら支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、各利用者の思いを聞き取り、希望に沿った支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪、毎朝鏡を見てもらい、関心、興味を持ってもらえる様支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と一緒にゆっくりと食べる様にしており、ご近所からの四季の食材の頂き物もあり食事を楽しんでいる。又利用者と食事の準備、片付けをして頂いている。	スーパーや移動販売車の買い物を利用者と共に行い、おやつや食事づくり・盛り付け・テーブル拭き・後片付け等を一緒に行っている。職員も一緒に談笑しながら楽しい時を過ごされていた。利用者の希望に添い個別にラーメン屋や回転ずし等に出かける楽しみを支援されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の介護記録、身体状況の記録があり、全職員が共有している。日々の状態の記録があり、栄養バランス、水分等に気を配っている。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、全利用者の口腔内ケアの実施を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を要する利用者が多く定期誘導を行い、尿意の無い利用者には表情を見ながら、トイレでの排泄が出来る様支援している。	気持ち良い排泄ケア・自立支援を基本支援としており、現在2名の利用者がオムツを着用しているが、オムツ外しの方法や車椅子利用者の対応方法の検討を行う等、見極めながら日中は出来るだけトイレでの排泄支援を目指した取り組みが行われている	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録あり、食事や水分補給に注意し、トイレへの定期誘導を行い対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態に合わせた入浴時間、方法を取りながら、季節の菖蒲湯、ゆず湯など取り入れ入浴を楽しんでいる。	午後のお茶の後に利用者の意向に合わせてながら、週2～3回位は入浴して頂いている。浴槽内の昇降機を利用している方も居る。様々な入浴剤(森林浴・桜等)を楽しんだり、季節や行事に合わせたゆず湯や菖蒲湯なども取り入れ、気持ち良い入浴の支援をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清潔保持に心掛け、室内の温度、湿度にも気を配っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々服用している薬の効果等わかる説明書が配備されている。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の力量に合わせ、声掛けしながら楽しめる様努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、利用者の状態によって散歩、外食等に出掛けたり、お花見や地域の催しにも参加出来る様支援している。	天候や状態に応じて近所の散歩や利用者の意向に副ってスーパーでの買い物(個別)や土産屋さんで饅頭を買う、座光寺地区や元善光寺の年間を通した催しへ出かける等の日常の楽しみ支援をしている。ご家族の協力による法事や一時帰宅等、出来る限りの支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族の意向として家族の管理となっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って支援出来る様努めている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられる様な貼り絵、イラスト等利用者と作成し、飾ったりしながら居心地よく過ごせる様なレイアウトに気を配っている。	玄関の下駄箱の上に利用者と一緒に飾った木目込みお雛様が置かれ、程よい広さの明るい食堂・ホールへと続いている。ホールには腰かける高さの畳の間もあり、炬燵で新聞を読んだり寝転んだり、又台所で職員と一緒に家事をする等思い思いに過ごす共用の場となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者の方々とで会話をしたり、好きな場所で過ごされている。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や自分で作成した作品が飾ってある。又使い慣れた家具を配置し穏かな暮らしが出来ている。	居室は全て持ち込みであり、使い慣れた家具やお位牌・写真 等が置かれ、その方らしさがうかがえた。利用者の状態に合わせた暖房器具や畳を敷き、居心地よく安全な生活が送れるよう配慮し、職員は居室担当があり、利用者・ご家族と共に日々の生活を支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレは手摺りを設置し安全に気を配っている。又なるべく職員が付き添いながら誘導等している。		